

【2025年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフあさひ				
○保護者評価実施期間	2025年11月20日 ~2025年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0人	(回答者数)	0人	
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ~2026年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層の児童同士の交流	異年代児童の関わりやコミュニケーションを増やすために、混合のグループ分けや移動時の手繋ぎ等してもらい機会を作っています。	法人内事業所同士の交流や地域の児童との交流を増やすことで、より多くの年齢層の児童や職員と関わってコミュニケーションを取り、対人スキルや社会性を学べるように促していきます。
2	地域交流	お餅つきやスイカ割り、クリスマスパーティーなど近くにある学童や介護施設・放課後等デイサービスさんをお誘いし一緒にイベントの実施を心がけています。	定期的な地域交流を行っていき、人のかかわり方・あいさつなどの社会性を学べるように促していきます。
3	利用者と職員の距離感	家や学校とは違う第三の居場所になれるよう、話しやすい・落ち着くことができるような雰囲気作り声掛けを行っています。	距離が近くなりすぎないようにメリハリをつけて支援して行きます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内活動の制限	ワンフロアになっており、ボール遊びや運動遊びと製作を同時進行で行うと、怪我のリスクがあるため室内活動に制限が限られます。	職員の配置を考えて、学習スペースで製作を行うなど空間を分けて室内活動を行っていきます。
2	クールダウンをする場所が難しい	事業所内がワンフロアになっており、空間の分離が難しい。その為、パニック等で個別に対応する環境を作る事が難しいです。	クールダウンが必要な場合には、倉庫や事務所、時には職員と一緒に外に出てクールダウンの促しを行っています。
3	学習支援が弱い	「遊びの中で成長を促す」というコンセプトのもとで活動している為、学習支援に対して弱く、宿題やプリントへの促し、見守り、助言を行っているが個別に対応が出来ない時もあります。	全員が合わせて学習の時間を設ける事が難しいが必要な児童に対しては保護者と相談の上、環境を整えるなど、より良い支援を行っていきます。